

アラセプリルの分析 – 日本薬局方 –

Analysis of Alacepril

アラセプリルは第十五改正日本薬局方において純度試験の類縁物質に液体クロマトグラフィーにより試験を行うとなっています。そこで今回は、類縁物質のシステム適合性におけるシステムの性能について、**L-column2 ODS** を用いて試験を行いました。システムの性能では、アラセプリル、パラオキシ安息香酸プロピルの順に溶出し、その分離度は7以上であることが条件となっていますが、**L-column2 ODS** では分離度は13以上で、適合可能なカラムでした。また、**L-column ODS** でも同様の分離度が得られています。

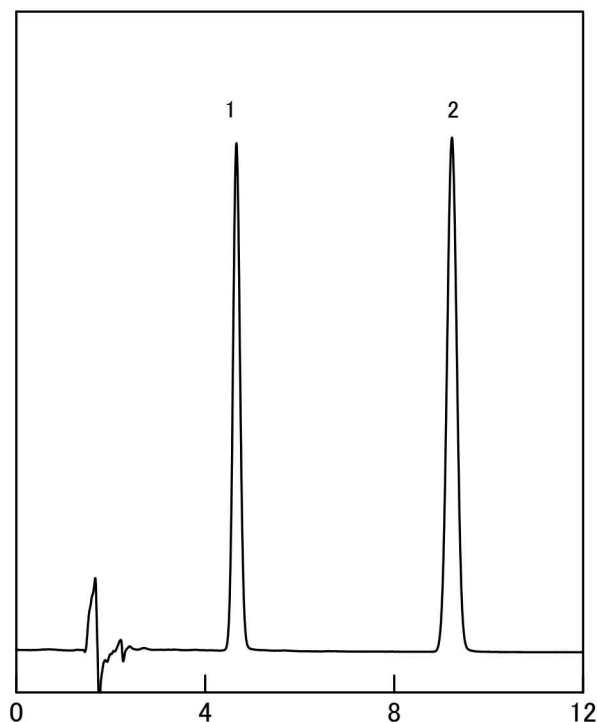
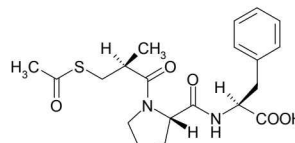
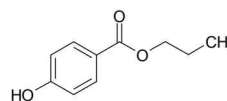


Fig. Chromatogram of Alacepril.

1. Alacepril (400 mg/L)



2. Propyl p-Hydroxybenzoate (125 mg/L)



(in mobile phase)

【Analytical conditions】

Column: **L-column2 ODS** (C18, 5 μ m, 12 nm) 4.6 mm I.D. \times 150 mm L.
Mobile phase: 1% CH₃COOH in H₂O / CH₃CN / CH₃OH / C₄H₈O (6/2/1/1)

Flow rate: 1 mL/min
Temperature: 40°C
Detection: UV 254 nm
Injection volume: 10 μ L
System: -